



# マルチレベル優先順位およびプリエンプシオン (MLPP)

このマニュアルでは、Cisco Unified Communications Manager Express 7.1 (Cisco Unified CME) で導入されたマルチレベル優先順位およびプリエンプシオン (MLPP) サービスについて説明します。

- [MLPP の前提条件 \(1 ページ\)](#)
- [MLPP について \(1 ページ\)](#)
- [MLPP の構成 \(13 ページ\)](#)
- [MLPP の機能情報 \(27 ページ\)](#)

## MLPP の前提条件

- Cisco Unified Cisco Mobility Express 7.1
- Cisco IOS Release 12.4(24)T
- Cisco Unified CME の基本自動着信呼分配 (B-ACD) および自動受付 (AA) サービスを、MLPP アテンダント コンソールアプリケーションとして使用するには、B-ACD スクリプトをダウンロードしてインストールする必要があります。これらのスクリプトは、Cisco Unified Cisco Mobility Express Software Download サイト (<http://www.cisco.com/cgi-bin/tablebuild.pl/ip-iostsp>) で入手できます。
- ブロック済み優先設定アナウンス、プリエンプシオン未対応ビジネスステーションに対しては独自のオーディオファイルを使用できます。または、Cisco Unified Cisco Mobility Express ソフトウェアダウンロード (<http://www.cisco.com/cgi-bin/tablebuild.pl/ip-iostsp>) で入手可能なオーディオファイルも使用できます。

## MLPP について

マルチレベル優先順位およびプリエンプシオン (MLPP) サービスでは、検証済みのユーザが優先順位の高いコールを発信でき、必要に応じて優先順位の低いコールをプリエンプシオン処

理できます。優先順位は、コールのプライオリティレベルを示します。プリエンブションは、優先順位の高いコールを処理できるように、優先順位の低いコールを終了するプロセスです。この機能により、国家の非常事態やネットワークの機能低下など、ネットワークに負荷がかかっている場合に、優先順位の高いユーザが重要な組織や担当者への通信を確実に行うことができます。

## 優先順位

優先順位は、MLPP コールに関連付けられたプライオリティ レベルを示します。電話機ユーザは、コールするときに優先順位レベルを適用できます。

Cisco Unified CME で MLPP アクセス番号を定義し、個々の電話機に最高の優先順位レベルを割り当てます。電話機ユーザは、アクセスコード NP をダイヤルすることによって、優先通話を要求します。ここで、N は事前構成されたアクセス番号を指定し、P は要求された優先順位レベル、それに続いて電話番号を指定します。

[表 1: DSN の優先順位レベル](#) に Defense Switched Network (DSN) ドメイン内で MLPP 通話に関連付けることができる優先順位レベルを示します。

表 1: DSN の優先順位レベル

レベル	優先順位
0 (高)	フラッシュオーバーライド
1	フラッシュ
2	即時
3	優先度
4 (低)	ルーチン

[表 2: DRSN の優先順位レベル](#) に Defense Red Switched Network (DRSN) ドメイン内で MLPP 通話に関連付けることができる優先順位レベルを示します。

表 2: DRSN の優先順位レベル

レベル	優先順位
0 (高)	フラッシュオーバーライドオーバーライド
1	フラッシュオーバーライド
2	フラッシュ
3	即時

レベル	優先順位
4	優先度
5 (低)	ルーチン

優先コールとは、優先レベルがルーチンよりも高いコールのことです。優先順位が特に指定されない場合、システムは通常のコール処理およびコール自動転送を使用してコールを処理しません。

緊急の 911 コールは自動的に優先順位レベル 0 に割り当てられます。

優先コールの発信元と宛先のいずれかで MLPP の表示が有効になっている場合、Cisco Unified CME はそれぞれの優先順位を表示します。発信元に対しては、この表示に優先順位リングバック トーンおよびコールの優先順位レベルの表示（デバイスで表示がサポートされる場合）が含まれます。宛先に対しては、この表示に優先呼び出し音およびコールの優先順位レベルの表示（デバイスで表示がサポートされる場合）が含まれます。

## 基本優先コール セットアップ

優先コールのセットアップ中は、次の順序でイベントが発生します。

1. 電話機ユーザがオフフック状態で優先コールをダイヤルします。ダイヤルパターンは NP-xxxx です。ここで、N は優先順位アクセス番号、P はコールの優先順位レベル、xxx は着信側の内線番号または電話番号です。
2. 発信側がコールの処理中に、優先順位リングバック トーンと優先順位表示を受信します。
3. 着信側が優先呼び出し音と、優先コールを示す優先順位表示を受信します。

### 例

通話者 1000 は通話者 1001 に優先コールをかけます。それには、通話者 1000 は 80-1001 のような優先コールのパターンをダイヤルします。

コールの処理中、発信側（1000）は Cisco Unified IP Phone で優先順位リングバック トーンと優先順位表示を受信します。優先コールの確認応答後に、着信側（1001）は Cisco Unified IP Phone で優先呼び出し音と優先順位表示を受信します。

## プリエンブション

プリエンブションは、優先順位の高いアクティブコールを処理できるように、優先順位の低いコールを終了するプロセスです。プリエンブションには、プリエンブション処理されるユーザの通知と確認応答、プリエンブションの直後と通話終了前の共有リソースの予約が含まれています。プリエンブションは、次のいずれかの形式にすることができます。

- ユーザアクセスのプリエンブション：このタイプのプリエンブションは、電話機やその他のエンドユーザ向けデバイスに適用されます。着信側が優先順位の低いコールでビジー状

態の場合、着信側と接続先の両方がプリエンブションの通知を受信し、既存のコールがただちにクリアされます。

Cisco Unified IP Phone へのコールの場合、着信側はただちにコールを終了して新しい優先順位の高いコールに接続するか、または着信側がコールを終了しなかった場合、Cisco Unified CME は、設定されたプリエンブション トーン タイマーの期限が切れた後に電話機を強制的にオンフック状態にして、通話を接続します。

FXS ポートの場合、着信側は新しい優先の高いコールに接続する前にオンフック状態にすることによって、プリエンブションを確認する必要があります。

- 共通ネットワーク ファシリティ プリエンブション：このタイプのプリエンブションは、トランクに適用されます。PRI トランクのすべてのチャンネルが優先順位の低いコールでビジー状態の場合、優先順位の高いコールを完了するために、優先順位の低いコールがプリエンブション処理されます。

Cisco Unified CME は、最初に（ダイヤルピア内の着信側番号との一致に基づいて）該当するすべてのトランク上のアイドルチャンネルを検索し、トランクを選択します。

アイドルチャンネルが見つからない場合、Cisco Unified CME はアイドルチャンネルに対して一度に1つのトランクを検索することによって、プリエンブティブ検索を実行します。トランクに使用可能なアイドルチャンネルがない場合、トランクに対応する優先順位の最も低いコールに対してプリエンブションが実行されます。トランクに対応する優先順位の低いコールが存在しない場合、次のトランクが順に検索されます。

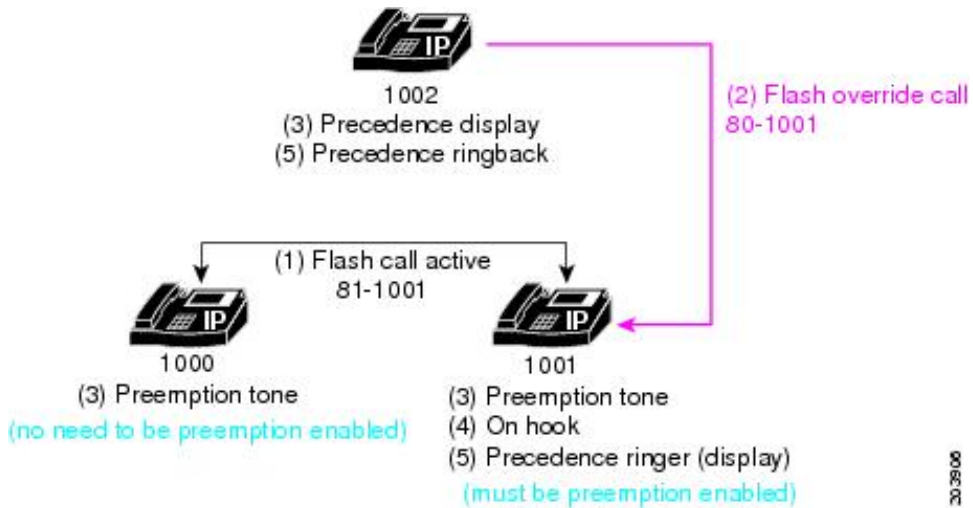
SCCP 電話はディレクトリ番号ごとに最大 8 つのコールをサポートします。すべての回線がビジー状態で、より優先順位の高い MLPP コールが着信した場合、Cisco Unified CME はディレクトリ番号のいずれかのチャンネルで優先順位の低いコールをプリエンブション処理します。

特定の電話機から発信された MLPP コールにユーザが割り当てることができる最大の優先順位レベルは、`ephone` テンプレートを使用して設定され、電話機ごとに適用されます。SCCP 電話と共有されるディレクトリ番号からのコールには、電話機の優先順位レベルに基づいて、複数の最高優先順位レベルを設定できます。

## 基本プリエンブションコール

図 1: ユーザアクセスプリエンブションの例は、ユーザーアクセスプリエンブションの例を示します。

図 1: ユーザアクセス プリエンプションの例



この例では、次の一連のイベントが発生します。

1. ユーザ 1000 は優先順位レベル 1 (フラッシュ) のコールをユーザ 1001 に対して発信し、ユーザ 1001 に対してプリエンブションが有効になります。この例では、ユーザ 1000 が 81-1001 をダイヤルし、優先コールを発信します。
2. ユーザ 1002 は 80-1001 をダイヤルして、ユーザ 1001 に対して優先コールを発信します。このコールは優先順位レベルが 0 (フラッシュ オーバーライド) で、アクティブ優先コールよりも優先順位の高いコールです。
3. 電話機 1002 は優先順位表示 (フラッシュ オーバーライド表示) を受信し、既存の優先順位の低いコールが含まれる両方の電話機でプリエンブショントーンが再生されます (ユーザ 1000 および 1001)。
4. プリエンプションを完了するには、優先順位の低いコールに含まれる通話者がコールを終了します (ユーザ 1000 および 1001)。
5. 優先順位の高いコールは、優先呼び出し音を受信するユーザ 1001 に発信されます (MLPP 表示が有効になっている場合)。発信側のユーザ 1002 は、優先順位リングバックを受信します。

## DSN ダイアル形式

Cisco Unified Cisco Mobility Express 8.0 以降のリリースでは表 3: DSN ダイアル形式 で概説されている DSN ダイヤリングフォーマットが完全にサポートされます。

表 3: DSN ダイアル形式

[Access-digit {Precedence-level  Service-digit}]	[Route-code]	[Area-code]	Switch-code	Line-number
[N {P   S}]	[1X]	[KXX]	KXX	XXXX

N は 2 ~ 9	P は 0 ~ 4	S は 5 ~ 9	X は 0 ~ 9	K は 2 ~ 8
-----------	-----------	-----------	-----------	-----------

## サービス番号

サービス番号は、政府または公衆電話のサービスまたはネットワークヘコールの接続に関する情報をスイッチに提供します。ダイヤルされた番号に基づいて選択されるトランクまたはサービスによって、サービスに到達します。電話機ユーザーは、アクセスコード NS をダイヤルすることによって、サービスを要求します。ここで、N は事前構成されたアクセス番号を指定し、S は要求されたサービス、それに続いて電話番号を指定します。

表 4: サービス番号は、Cisco Unified Cisco Mobility Express 8.0 以降のバージョンでサポートされるサービス番号を一覧します。

表 4: サービス番号

サービス番号	優先順位
5	オフネット 700 サービス
6	未定義
7	DSN CONUS FTS
8	未定義
9	ローカル PSTN

Cisco Unified CME では、2 次ダイヤルトーンを再生するようにルートパターンが設定され、残りの番号が収集されて発信側番号として PSTN トランクに渡されます。アクセス番号およびサービス番号に続く番号は、NANP に準拠しています (E.164 番号)。

Cisco Unified CME では、2 桁の番号の後に 2 次ダイヤルトーンを再生してから、収集された残りの番号に基づいてコールがルーティングされます (ダイヤルプランの設定を使用します)。これらのサービスには、ダイヤルされた番号 (ルート番号の後にダイヤルされる) に基づいて選択されたトランク (またはルート) を通じて到達すると見なされます。

## ルートコード

ルートコードでは、電話機ユーザーがスイッチに特別なルーティングまたは終了の要件を通知できます。ルートコードは、コールが回線交換されたデータまたは音声グレード トランッキングを使用するかどうかを判断し、エコー サプレッサおよびエコー キャンセラを無効にするために使用でき、衛星リンク コントロールをオーバーライドします。

ルートコードの最初の番号は 1 です。これはダイヤルプランでスイッチに次の番号であるルート番号を通知するために必要な部分であり、ネットワークに対して特別なルーティングのための指示を行います。電話機ユーザーは 1X の形式でルートコードをダイヤルします。X はルート番号です。ユーザーがダイヤルできるようにサポートされるルート番号は 0 と 1 です。

表 5: ルートコードは、Cisco Unified Cisco Mobility Express 8.0 以降のバージョンでサポートされるルートコードを一覧しています。

表 5: ルートコード

ルートコード	使用	説明
10	音声コール (デフォルト)	G.711、G.729、または FAX あるいはモデムのパストルーなど、音声または音声帯域データを伝送するコーデック。
11	回線交換されたデータ	変更なしの DS0 トラフィックを IP を介して伝送するコーデック (回線エミュレーション)。 Cisco Unified CME では、audio/clearmode コーデックです (RFC-4040)。

## ダイヤルの例

ユーザがダイヤルする最初の番号が、設定されたアクセス番号になっている場合は、次の番号が優先順位番号またはサービス番号のいずれかになるアクセスコードであることが示されます。次にダイヤルされる番号は、次のようになります。

- 0 ~ 4 : 優先コールです。Cisco Unified CME は優先順位表示を設定し、優先順位の値を保存し、番号を破棄します。
- 5 ~ 9 : 特定のサービスへのコールです。Cisco Unified CME はコールを指定されたトランクに渡し、番号を破棄し、2 次ダイヤルトーンを再生します。

ユーザが最初にダイヤルする番号またはアクセスコードの次にダイヤルする番号は、次のようになります。

- 1 : これはルートコードであり、次の番号はルート番号です。ユーザがダイヤルできるようにサポートされるルート番号は 0 と 1 です。Cisco Unified CME は、後でルート選択に使用できるようにルートコードを保存し、トランクタイプの表示を設定し、ルートコード番号を破棄します。

ユーザが最初にダイヤルする番号、またはアクセスコードあるいはルートコードの次にダイヤルする番号は、次のようになります。

- 2 ~ 8 : エリアコードまたはスイッチコードの最初の番号です。DSN のエリアコードおよびスイッチコードは、重複しないように割り当てられます。エリアコード/スイッチコードはルートの選択に使用されます。

## MLPP サービス ドメイン

Cisco Unified CME 8.0 以降のバージョンでは、MLPP サービス ドメインがサポートされます。サービス ドメインは MLPP サブスクライバのグループおよびネットワーク リソースで構成さ

れます。コールおよびリソースをプリエンブション処理できるのは、同じドメイン内の MLPP サブスクリバからのプライオリティの高いコールだけです。

DSN や DRSN のようなドメインタイプ、およびドメイン識別子で各デバイスを設定できます。グローバル MLPP ドメインタイプおよび識別子を Cisco Unified CME ルータに割り当て、さまざまなサービスドメインを ephone テンプレートによって Cisco Unified CME に登録された個々の電話機に割り当てることができます。特定のサービスドメインが設定されていない電話機からのコールでは、グローバルドメインタイプおよび識別子が使用されます。

MLPP 優先順位およびプリエンブションは、同じドメイン内だけで適用されます。プリエンブション処理できるのは、同じドメイン内のコールだけです。MLPP サービスドメインが異なる 2 人の加入者間でコールが発信される場合、Cisco Unified CME はコールの発信側のサービスドメインを割り当てます。

図 2: 識別子が異なるサービスドメインでは、識別子番号が異なるドメイン間で試行されたプリエンブションの例を示しています。

図 2: 識別子が異なるサービスドメイン

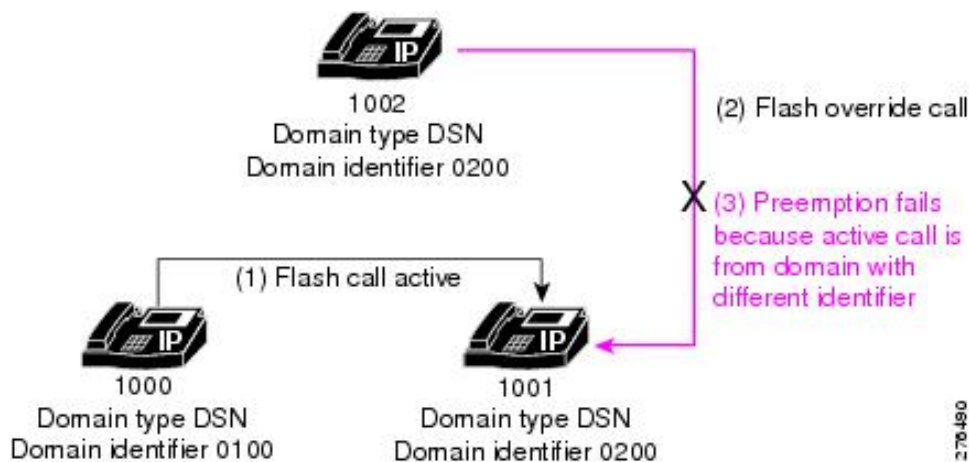


図 2: 識別子が異なるサービスドメイン で示されている例では、次の順序でイベントが発生します。

1. サービスドメイン 0100 からユーザ 1000 が優先順位レベル 1 (フラッシュ) のコールを、サービスドメイン 0200 のユーザ 1001 に発信します。コールは、ドメイン番号 0100 に割り当てられます。これは、コールの発信者のサービスドメインであるためです。
2. ユーザ 1002 はドメイン番号 0200 から、ユーザ 1001 に対して優先コールを発信します。このコールは優先順位レベルが 0 (フラッシュ オーバーライド) で、アクティブ優先コールよりも優先順位の高いコールです。
3. 着信コールがアクティブコールとは別のサービスドメインから発信されたため、アクティブコールはプリエンブション処理されません。ドメイン 0200 からのコールは、ドメイン 0100 からのコールをプリエンブション処理できません。



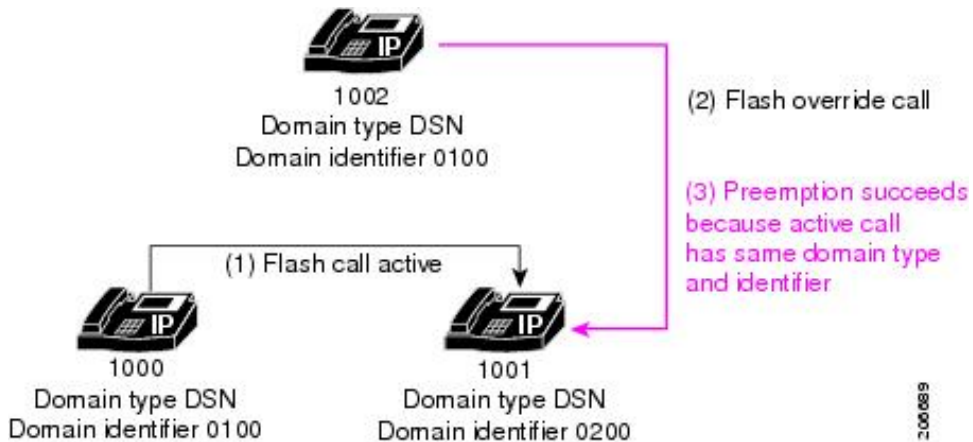
図 3: ドメインタイプが異なるサービスドメインに示す例では、着信通話が進行中の通話とは別のドメインタイプから発信されたため、進行中の通話はプリエンプション処理されません。DSN からの通話は、DRSN からの通話をプリエンプション処理できません。

図 3: ドメインタイプが異なるサービスドメイン



図 4: タイプと識別子が同じサービスドメインに示す例では、着信通話のドメインタイプおよび識別子が進行中の通話と同じであるため、進行中の通話が正常にプリエンプション処理されます。

図 4: タイプと識別子が同じサービスドメイン



## MLPP 通知

MLPP 表示が有効になっている基本 MLPP コールの場合、Cisco Unified CME は SCCP 電話機に対して優先呼び出し音を再生し、優先順位レベルを表示するように指示します。

プリエンプションが含まれ、MLPP 表示が有効になっている基本 MLPP コールの場合、Cisco Unified CME は発信者と宛先の両方の電話機に対してプリエンプショントーンを再生し、MLPP コールの優先順位レベルを表示するように指示します。

コール待機のある MLPP コールの場合、MLPP 表示が有効になっていると、Cisco Unified CME は SCCP 電話機に対して、通常のコール待機トーンではなく、優先コール待機音を再生するように指示します。

ユーザが自分の電話機で許可されている最高の優先順位レベルよりも優先順位レベルの高いコールを発信しようとする、エラー トーンが再生されます。

たとえば、ユーザ 1002 が 80 をダイヤルして優先コールを開始するとします。8 は優先順位アクセス番号を表し、0 はユーザが使用しようとしている優先順位レベルを表します。このユーザがレベル 0 (フラッシュオーバーライド) の優先コールを発信することを許可されていない場合、エラー トーンが再生されます。

## MLPP アナウンス

MLPP コールを発信できないユーザには、コールが正常に発信できなかった理由を説明するアナウンスが再生されます。表 6: MLPP アナウンス には、サポートされている MLPP アナウンスが一覧されています。

表 6: MLPP アナウンス

アナウンス	条件
<b>ブロックされた優先順位アナウンス (BPA)</b>	
(スイッチ名と場所)。同等以上の優先順位のコールが行われているため、コールを完了できません。(Equal or higher precedence calls have prevented completion of your call.) 一度電話をお切りになってから、もう一度おかけ直してください。これは録音メッセージです。(スイッチ名と場所)。	<p>同等またはそれ以上の優先コールが進行中です。</p> <p>優先コールの宛先側がオフフック状態であるか、宛先側が同じ優先順位か優先順位の高い優先コールでビジー状態である場合、ユーザに対して BPA が再生されます。</p> <p>接続先で、[通話中着信 (Call Waiting)] または [Call Forwarding] が構成されている場合、または attendant-console サービスへの自動通話転送が使用されている場合、BPA は再生されません。</p> <p>Cisco Unified Cisco Mobility Express 7.1 以降のバージョンでサポートされます。</p>
<b>Busy Not Equipped Announcement (BNEA)</b>	
(スイッチ名と場所)。サービス障害のため、電話をおつなぎできません。30分待ってから、もう一度試してください。(Please wait 30 minutes and try again.) 緊急の場合は、交換手までお電話ください。これは録音メッセージです。(スイッチ名と場所)。	<p>プリエンブションに対応していないビジー状態のステーションです。</p> <p>ダイヤルした番号がビジーまたは非プリエンブションの場合、ユーザーは、BNEA を受信します。</p> <p>ダイヤルされた番号に [通話中着信 (Call Waiting)] または [Call Forwarding] が構成されているまたは、代替通話接続先が設定されている場合、BNEA は再生されません。</p> <p>Cisco Unified Cisco Mobility Express 7.1 以降のバージョンでサポートされます。</p>
<b>独立コード アナウンス (ICA)</b>	

アナウンス	条件
<p>(スイッチ名と場所)。サービス障害のため、電話をおつなぎできません。30分待つてから、もう一度試してください。(Please wait 30 minutes and try again.) 緊急の場合は、交換手までお電話ください。これは録音メッセージです。(スイッチ名と場所)。</p>	<p>動作または機器の問題が発生しました。</p> <p>すべてのルートが含まれる完全なトランクグループは、回線の一端またはすべてのルートが含まれるトランクグループ全体が通信事業者グループのアラーム状態(たとえば、信号消失、リモートアラーム表示、アラーム表示信号など)になると、手動でビジー状態になります。</p> <p>Cisco Unified Cisco Mobility Express 8.0 以降のバージョンでサポートされます。</p>
<b>C2 機能の喪失アナウンス (LOC2)</b>	
-	<p>コールが DSN から発信されます。</p> <p>通話がトランク上の Cisco Unified Cisco Mobility Express ルータから発信されるか、またはユーザーが別のドメインへの通話を発信すると、LOC2 アナウンスが再生されます。</p> <p>たとえば、オフネット終了を許可する場所へのコールを発信する DSN 発信者には、DSN から発信されたことを通知するアナウンスが再生される場合があります。</p> <p>Cisco Unified Cisco Mobility Express 8.0 以降のバージョンでサポートされます。</p>
<b>許可されていない優先順位レベルアナウンス (UPA)</b>	
<p>(スイッチ名と場所)。ご使用になった優先度は、回線で認証されていません。許可された優先順位を使用するか、担当者にお問い合わせください。(Please use an authorized precedence or ask your attendant for assistance.) これは録音メッセージです。(スイッチ名と場所)。</p>	<p>許可されていない優先順位レベルが試行されました。</p> <p>ユーザが自分の回線で許可されている最高の優先順位レベルよりも高い優先順位レベルを使用して優先コールを発信しようとする、UPA が再生されます。</p> <p>Cisco Unified Cisco Mobility Express 8.0 以降のバージョンでサポートされます。</p>
<b>空白コード アナウンス (VCA)</b>	

アナウンス	条件
<p>(スイッチ名と場所)。おかけになった電話番号では、正しくおつなぎできません。番号を確認してからもう一度おかけ直しいただくか、交換手までお問い合わせください。これは録音メッセージです。(スイッチ名と場所)。</p>	<p>そのようなサービスは提供されていないか、またはコードが無効です。</p>
	<p>ユーザが無効な番号または割り当てられていない番号をダイヤルすると、VCAが再生されます。</p> <p>Cisco Unified Cisco Mobility Express 8.0 以降のバージョンでサポートされます。</p>

## 自動コール転送 (アテンダント コンソール)

Cisco Unified CME は、選択した期間の経過後に、応答のないすべてのルーチン以上の優先コールを、指定されたディレクトリ番号またはアテンダント コンソールへ自動転送する機能がサポートされています。

MLPP コールの自動コール転送が Cisco Unified CME で設定されている場合、電話機で着信する優先順位がルーチン以上のすべての優先コールのコール転送設定がオーバーライドされ、これらのコールが MLPP コンフィギュレーションで指定されたアテンダント コンソールアプリケーションに転送されます。Cisco Unified CME は優先順位レベルがルーチンの MLPP コールを通常のコールとして扱い、電話機で設定されたコール自動転送設定に従います。

Cisco Unified CME が転送された MLPP コールをどのように処理するかは、次のコール自動転送オプションによって異なります。

- すべてのコールの転送 (CFA) : 優先コールがただちにアテンダント コンソールの宛先番号にルーティングされます。CFA の宛先は MLPP コールに使用されません。
- 話中のコール転送 (CFB) : 優先コールが設定された CFB の宛先に転送されます。CFB の宛先がボイスメールまたはオフネット エンドポイントの場合、コールはアテンダント コンソール サービスの宛先番号に転送されます。
- 応答なしのコール転送 (CFNA) : 優先コールが設定された CFNA の宛先に転送されます。CFNA の宛先が、CFNA タイマーが切れる前に返答しない場合、または音声メールまたはオフネットエンドポイントの場合、通話は、アテンダントコンソールサービスの対象番号に転送されます。

アテンダント コンソールに転送されるコールは視覚的に表示され、優先順位および間隔ごとに受付サービスのキューに配置されます。最大の優先順位と最長の保持時間のコールが最初に応答されます。キュー内で受付サービスを待機しているコールに対して、受付キューアナウンスが再生されます。コール分配が実行されて長すぎる待機時間が短縮され、共通キューから各アテンダント ポジションが動作します。Cisco Unified Cisco Mobility Expressは、基本自動着信呼分配および自動アテンダント (AA) サービスを使用して MLPP 用アテンダントコンソール サービスをサポートします。

# MLPP の構成

## Cisco Unified Cisco Mobility Express での MLPP サービスの全体的な有効化

この作業では、ルータで MLPP を有効にするために必要な基本的なステップについて説明します。



### 制約事項

- SIP 電話機はサポートされません。
- Cisco Unified IP Phone 6900 シリーズの電話機はサポートされません。
- SRST フォールバックモードの Cisco Unified Cisco Mobility Express がサポートされています。
- ISDN PRI E1 および T1 インターフェイスだけがサポートされます。
- ローカル Cisco Unified CME ルータ内だけで MLPP サービスがサポートされます。
- Cisco Unified CME 7.1 では、基本コール、コール自動転送、コールの保留と復帰、打診コール転送、コール待機がサポートされます。ブラインド転送は、サポートされていません。
- Cisco Unified CME 8.0 以降のバージョンでは、3 者間アドホック会議およびコールピックアップがサポートされます。
- 優先順位レベルに基づく通話パーク取得はサポートされません。パークスロットごとに 1 つのコールだけに応答するように Cisco Unified CME を設定する必要があります。

### 始める前に

トランクがトランクグループに属し、プリエンブションが有効になっていること。構成情報については、「マルチサービス アクセスルータの *ISDN PRI* 向けデータおよび音声サービスの統合」の「[トランクグループのプリエンブションの有効化](#)」を参照してください。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **voice mlpp**
4. **access-digit digit**
5. **bnea audio-url**
6. **bpa audio-url**
7. **upa audio-url**

8. `service-domain { drsn | dsn } identifier domain-number`
9. `end`

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	<b>voice mlpp</b> 例： Router(config)# voice mlpp	音声 MLPP コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<b>access-digit digit</b> 例： Router(config-voice-mlpp)# access-digit 8	電話機ユーザが MLPP コールを発信するためにダイヤルするアクセス番号を定義します。  • <i>digit</i> —ユーザーがダイヤルする 1 桁の番号。範囲：0～9。デフォルト：[0]。  (注) 使用しているドメインタイプで、選択したアクセス番号がサポートされている必要があります。たとえば、DNS の有効範囲は 2～9 です。
ステップ 5	<b>bnea audio-url</b> 例： Router(config-voice-mlpp)# bnea flash:bnea.au	プリエンブションに対応していないビジー状態のステーションアナウンスを再生するためのオーディオファイルを指定します。  • <i>audio-url</i> —URL フォーマットのアナウンスメント オーディオファイルのロケーション。有効な保存場所は、TFTP、FTP、HTTP、およびフラッシュメモリです。
ステップ 6	<b>bpa audio-url</b> 例： Router(config-voice-mlpp)# bpa flash:bpa.au	ブロックされた優先順位アナウンスを再生するためのオーディオファイルを指定します。
ステップ 7	<b>upa audio-url</b> 例：	許可されていない優先順位アナウンスを再生するためのオーディオファイルを指定します。

	コマンドまたはアクション	目的
	Router(config-voice-mlpp)# upa flash:upa.au	<ul style="list-style-type: none"> <li>このコマンドは Cisco Unified CME 8.0 以降のバージョンでサポートされます。</li> </ul>
ステップ 8	<b>service-domain { drsn   dsn} identifier domain-number</b> 例 : Router(config-voice-mlpp)# service-domain dsn 0010	(任意) グローバル MLPP ドメインのタイプと番号を設定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>drsn</b>— Defense Red Switched Network (DRSN)。</li> <li><b>dsn</b>— Defense Switched Network (DSN)。これはデフォルト値です。</li> <li><b>domain-number</b>— three-octet 形式でグローバルドメインを指定する番号。範囲 : 0x000000 ~ 0xFFFFFFFF。デフォルト : [0]。</li> <li><b>mlpp service-domain</b> コマンドを使用して構成されていない場合、電話機は、この MLPP 通話用グローバルドメインを使用します。</li> <li>このコマンドは Cisco Unified CME 8.0 以降のバージョンでサポートされます。</li> </ul>
ステップ 9	<b>end</b> 例 : Router(config-voice-mlpp)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

### 例

次に、Cisco Unified CME ルータで MLPP が有効になっている例を示します。

```
voice mlpp
  access-digit 8
  bpa flash:bpa.au
  bnea flash:bnea.au
  upa flash:upa.au
  service-domain dsn identifier 000010
```

## SCCP 電話機での MLPP サービスの有効化



### 制約事項

Cisco Unified Cisco Mobility Express 8.0 以降では、**mlpp max-precedence** コマンドはサポートされていません。このコマンドは、**mlpp service-domain** コマンドに置き換わりました。

## 始める前に

Cisco Unified CME ルータで MLPP がグローバルに有効になっていること。 [Cisco Unified Cisco Mobility Express](#) での MLPP サービスの全体的な有効化を参照してください。

## 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **ephone-template *template-tag***
4. **mlpp service-domain { *drsn* | *dsn* } identifier *domain-number* max-precedence *level***
5. **mlpp preemption**
6. **mlpp indication**
7. **exit**
8. **ephone *phone-tag***
9. **ephone-template *template-tag***
10. **restart**
11. **end**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	<b>ephone-template <i>template-tag</i></b> 例： Router(config)# ephone-template 15	ephone テンプレート コンフィギュレーションモードを開始して、ephone テンプレートを作成します。  • <i>template-tag</i> — 作成される ephone テンプレートの固有識別子。範囲：1 ~ 20。
ステップ 4	<b>mlpp service-domain { <i>drsn</i>   <i>dsn</i> } identifier <i>domain-number</i> max-precedence <i>level</i></b> 例： Router(config-ephone-template)# mlpp service-domain <i>dsn</i> identifier 0010 max-precedence 0	この電話機からの LPP コールのサービス ドメインおよび最大優先順位（プライオリティ）レベルを設定します。  • <b>drsn</b> — 電話機が Defense Red Switched Network (DRSN) に属しています。  • <b>dsn</b> — 電話機が、Defense Switched Network (DSN) に属しています。これはデフォルト値です。



	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>domain-number</i>— three-octet 形式でグローバルドメインを指定する番号。範囲：0x000000～0xFFFFFFFF。</li> <li>• <i>level</i>— 最高優先順位レベル。電話機ユーザがこの値と等しいか、それ以下の優先順位レベルを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• DSN：範囲：0～4で、0が最高プライオリティです。</li> <li>• DRSN：範囲：0～5で、0が最高プライオリティです。</li> </ul> </li> <li>• このコマンドは Cisco Unified CME 8.0 以降のバージョンでサポートされます。</li> </ul>
ステップ 5	<b>mlpp preemption</b> 例： <pre>Router(config-ephone-template)# no mlpp preemption</pre>	(任意) 電話機でコールがプリエンプション処理されるようにします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• プリエンプションはデフォルトで有効です。<b>no mlpp preemption</b> コマンドを使用して、プリエンプションを無効にする場合以外は、この手順をスキップします。</li> </ul>
ステップ 6	<b>mlpp indication</b> 例： <pre>Router(config-ephone-template)# no mlpp indication</pre>	(任意) 電話機で優先順位トーンおよびプリエンプション トーンの再生、およびコールのプリエンプション レベルの表示を有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• MLPP 表示は、デフォルトで有効になっています。<b>no mlpp indication</b> コマンドを使用して MLPP 表示を無効にする以外は、この手順をスキップします。</li> </ul>
ステップ 7	<b>exit</b> 例： <pre>Router(config-ephone-template)# exit</pre>	<b>ephone</b> テンプレート コンフィギュレーション モードを終了します。
ステップ 8	<b>ephone phone-tag</b> 例： <pre>Router(config)# ephone 36</pre>	<b>ephone</b> コンフィギュレーション モードを開始します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>phone-tag</i>— 構成タスク中にこの <b>ephone</b> を識別する一意のシーケンス番号です。</li> </ul>
ステップ 9	<b>ephone-template template-tag</b> 例：	<b>ephone</b> テンプレートを、設定する <b>ephone</b> に適用します。

	コマンドまたはアクション	目的
	Router(config-ephone)# ephone-template 15	
ステップ 10	<b>restart</b> 例： Router(config-ephone)# restart	この ephone の高速リブートを実行します。DHCP または TFTP サーバに接続して、最新情報を取得することは行われません。  (注) telephony-service 構成モードで <b>restart all</b> コマンドを使用してすべての ephone を再起動します。
ステップ 11	<b>end</b> 例： Router(config-ephone)# end	特権 EXEC モードに戻ります。

### 例

次に、定義された MLPP でテンプレート 1 を使用する 3 台の電話機の基本コンフィギュレーションの例を示します。図 5: プリエンブション コールの例 には、この構成を使用した優先通話の例が示されています。

```
voice mlpp
  access-digit 8
  bpa flash:BPA.au
  bnea flash:BNEA.au
  upa flash:UPA.au

ephone-template 1
mlpp service-domain dsn identifier 000000 max-precedence 0
!Configures MLPP domain as DSN, identifier as 000000, and max-precedence set to 0

ephone-dn 1
  number 1001

ephone-dn 2
  number 1002

ephone-dn 3 dual-line
  number 1003
  huntstop channel

ephone 1
  description Phone-A
  mac-address 1111.2222.0001
  button 1:1
  ephone-template 1
  ! MLPP configuration inherited from ephone-template 1

ephone 2
  description Phone-B
  mac-address 1111.2222.0002
  button 1:2
  ephone-template 1

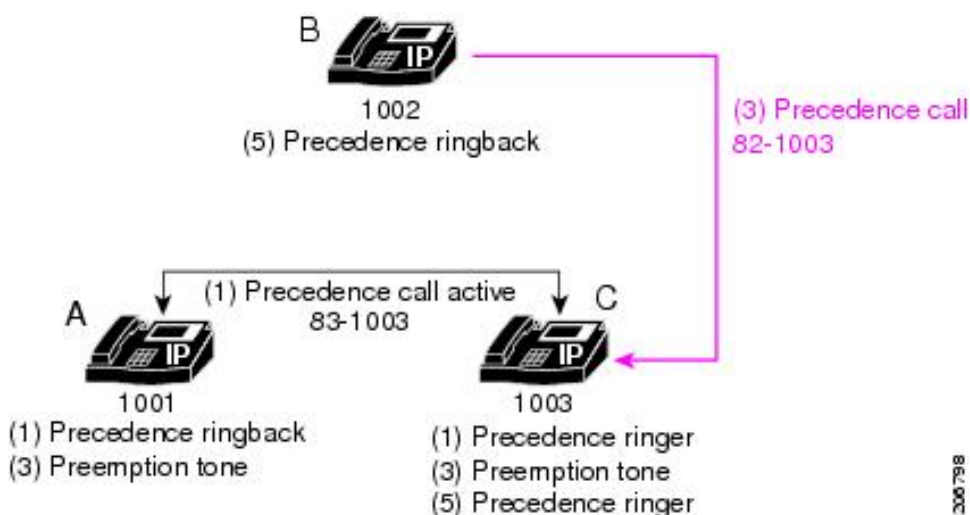
ephone-3
```

```
description Phone-C
mac-address 1111.2222.0003
button 1:3
ephone-template 1
```



(注) **huntstop channel** コマンドは、デュアル回線と octo-line ディレクトリ番号で構成し、これらのタイプの回線の通話をプリエンブション処理する必要があります。そうしないと、デュアルラインまたはオクトラインでコール待機が表示され、コールがプリエンブション処理されません。

図 5: プリエンブションコールの例



この例では、次の一連のイベントが発生します。

1. 電話機 A が 831003 (アクセス番号 8 + 優先順位レベル 3 + 宛先番号 1003) をダイヤルして電話機 C に対して優先コールを発信します。  
電話機 C がコールに応答します。
2. 電話機 C に対して優先呼び出し音が再生され、電話機 A に対して優先順位リングバックが再生されます。
3. 電話機 B が 821003 をダイヤルして電話機 C に対して優先コールを発信します。  
**preemption tone timer** コマンドの期間 (デフォルト値は 3 秒) に、電話機 A と電話機 C の両方で、プリエンブショントーンが鳴ります。
4. 3 秒後に電話機 A がプリエンブション処理されます。
5. 電話機 C が呼び出し (優先呼び出し音) を開始し、電話機 B に対して優先順位リングバックが再生されます。
6. 電話機 C がコールに応答します。

## アナログ FXS 電話機ポートの MLPP サービスの有効化

始める前に

Cisco Unified CME ルータで MLPP がグローバルに有効になっていること。 [Cisco Unified Cisco Mobility Express](#) での MLPP サービスの全体的な有効化を参照してください。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **voice-port port**
4. **mlpp service-domain { drsn | dsn } identifier domain-number max-precedence level**
5. **mlpp preemption**
6. **mlpp indication**
7. **end**

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	<b>voice-port port</b> 例： Router(config)# voice-port 0/1/0	音声ポート コンフィギュレーション モードを開始します。  • <i>Port</i> 引数は、プラットフォーム依存型です。シンタックスを表示するには、 <b>?</b> と入力します。
ステップ 4	<b>mlpp service-domain { drsn   dsn } identifier domain-number max-precedence level</b> 例： Router(config-voiceport)# mlpp service-domain dsn identifier 0020 max-precedence 0	このポートからの LPP コールのサービス ドメイン および最大優先順位 (プライオリティ) レベルを設定します。  • <b>drsn</b> ポートが Defense Red Switched Network (DRSN) に属しています。  • <b>dsn</b> ポートが Defense Switched Network (DSN) に属しています。

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>domain-number</i>—three-octet 形式でグローバルドメインを指定する番号。範囲：0x000000 ～ 0xFFFFFFFF。</li> <li>• <i>level</i>—最高優先順位レベル。電話機ユーザがこの値と等しいか、それ以下の優先順位レベルを指定できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• DSN：範囲：0～4 で、0 が最高プライオリティです。</li> <li>• DRSN：範囲：0～5 で、0 が最高プライオリティです。</li> </ul> </li> <li>• このコマンドは Cisco Unified CME 8.0 以降のバージョンでサポートされます。</li> </ul>
ステップ 5	<b>mlpp preemption</b> 例： <pre>Router(config-voiceport)# no mlpp preemption</pre>	(任意) ポートでコールがプリエンプション処理されるようにします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• プリエンプションはデフォルトで有効です。 <b>no mlpp preemption</b> コマンドを使用して、プリエンプションを無効にする場合以外は、この手順をスキップします。</li> </ul>
ステップ 6	<b>mlpp indication</b> 例： <pre>Router(config-voiceport)# no mlpp indication</pre>	(任意) 電話機で優先順位トーンおよびプリエンプション トーンの再生、およびコールのプリエンプション レベルの表示を有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• MLPP 表示は、デフォルトで有効になっています。 <b>no mlpp indication</b> コマンドを使用して MLPP 表示を無効にする以外は、この手順をスキップします。</li> </ul>
ステップ 7	<b>end</b> 例： <pre>Router(config-voiceport)# end</pre>	特権 EXEC モードに戻ります。

### 例

次に、音声ポート 0/1/0 に接続されたアナログ FXS 電話機で最大優先順位の MLPP コールを発信できるものの、コールをプリエンプション処理できない例を示します。

```
voice-port 0/1/0
  mlpp service-domain dsn identifier 000020 max-precedence 0
  no mlpp preemption
```

```
station-id name uut1-fxs1
caller-id enable
```

## 発信ダイヤルピア向け MLPP サービスドメインの構成

トランクを介して Cisco Unified CME ルータから発信する必要がある MLPP コールにサービスドメインを割り当てるには、対応するダイヤルピアに対して次の手順を実行します。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **voice class mlpp tag**
4. **service-domain {drsn | dsn}**
5. **exit**
6. **dial-peer voice tag {pots | voip}**
7. **voice-class mlpp tag**
8. **end**

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	<b>voice class mlpp tag</b> 例： Router(config)# voice class mlpp 1	MLPP サービスの音声クラスを作成します。  • <i>tag</i> —音声クラスを識別する一意の番号。範囲：1 ~ 10000。
ステップ 4	<b>service-domain {drsn   dsn}</b> 例： Router(config-voice-class)# service-domain dsn	MLPP 音声クラスでネットワークドメインを設定します。  • <b>drsn</b> — Defense Red Switched Network (DRSN)。 • <b>dsn</b> — Defense Switched Network (DSN)。
ステップ 5	<b>exit</b> 例： Router(config-voice-class)# exit	voice-class コンフィギュレーションモードを終了します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 6	<b>dial-peer voice tag { pots   voip }</b> 例： Router(config)# dial-peer voice 101 voip	ダイヤルピア音声コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 7	<b>voice-class mlpp tag</b> 例： Router(config-dial-peer)# voice-class mlpp 1	以前に設定された MLPP 音声クラスを POTS ダイヤルピアまたは VoIP ダイヤルピアに割り当てます。  • <i>tag</i> — ステップ 3 で作成した音声クラスの一意の番号。
ステップ 8	<b>end</b> 例： Router(config-dial-peer)# end	ダイヤルピア音声コンフィギュレーションモードを終了します。

### 例

次に、DSN サービスドメインに対して定義された MLPP 音声クラスの例を示します。この音声クラスは、ポート 0/1/0 から発信されるコールが DSN プロトコルを使用するように、POTS ダイヤルピアに割り当てられます。

```
voice class mlpp 1
  service-domain dsn
  !
  !
  dial-peer voice 1011 pots
  destination-pattern 19101
  voice-class mlpp 1
  port 0/1/0
```

## MLPP オプションの構成

オプションの MLPP 機能を設定するか、またはデフォルト設定を変更するには、次の手順を実行します。

### 手順の概要

1. **enable**
2. **configure terminal**
3. **voice mlpp**
4. **preemption trunkgroup**
5. **preemption user**
6. **preemption tone timer *seconds***
7. **preemption reserve timer *seconds***
8. **service-domain midcall-mismatch {method1 | method2 | method3 | method4}**
9. **service-digit**

10. **route-code**
11. **attendant-console number redirect-timer seconds**
12. **ica audio-url**
13. **loc2 audio-url**
14. **vca audio-url voice-class cause-code tag**
15. **end**

## 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	<b>configure terminal</b> 例： Router# configure terminal	グローバル構成モードを開始します。
ステップ 3	<b>voice mlpp</b> 例： Router(config)# voice mlpp	音声 MLPP コンフィギュレーションモードを開始します。
ステップ 4	<b>preemption trunkgroup</b> 例： Router(config-voice-mlpp)# preemption trunkgroup	トランク グループでプリエンプション機能を有効にします。
ステップ 5	<b>preemption user</b> 例： Router(config-voice-mlpp)# preemption user	サポートされるすべての電話機で、コールのプリエンプション処理を有効にします。
ステップ 6	<b>preemption tone timer seconds</b> 例： Router(config-voice-mlpp)# preemption tone timer 15	優先順位の低いコールがプリエンプション処理される場合に、コールされた電話でプリエンプション トーンを再生する時間を設定します。  • <i>seconds</i> —有効期限 (秒単位)。範囲：3～30。デフォルト：0 (無効)。
ステップ 7	<b>preemption reserve timer seconds</b> 例： Router(config-voice-mlpp)# preemption reserve timer 10	プリエンプション コールのためにチャンネルを予約しておく時間を設定します。  • <i>seconds</i> —範囲：3～30。デフォルト：0 (無効)。



	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 8	<p><b>service-domain midcall-mismatch { method1   method2   method3   method4 }</b></p> <p>例 :</p> <pre>Router(config-voice-mlpp)# service-domain midcall-mismatch method2</pre>	<p>コールの2つのレッグ間でドメインが一致していない場合の動作を定義します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>method1</b> 各接続のドメインは変更されず、優先順位の低い通話の優先順位レベルが優先順位の高い通話の優先順位レベルに変更されます。これはデフォルト値です。</li> <li>• <b>method2</b>—優先順位の低い通話のドメインおよび優先順位レベルが、優先順位の高い通話のドメインおよび優先順位レベルに変更されます。</li> <li>• <b>method3</b> 各接続のドメインは変更されず、両方の通話の優先順位レベルが [ルティーン (Routine) ] に変更されます。</li> <li>• <b>method4</b> ドメインが、補足サービスが呼び出された接続のドメインに変更されます (たとえば、転送の場合は転送元)。両方のコールの優先順位レベルがルーチンに変更されます。</li> <li>• このコマンドは Cisco Unified CME 8.0 以降のバージョンでサポートされます。</li> </ul>
ステップ 9	<p><b>service-digit</b></p> <p>例 :</p> <pre>Router(config-voice-mlpp)# service-digit</pre>	<p>電話機ユーザがサービス番号をダイヤルしてオフネットサービスを要求することを有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• このコマンドは Cisco Unified CME 8.0 以降のバージョンでサポートされます。</li> </ul>
ステップ 10	<p><b>route-code</b></p> <p>例 :</p> <pre>Router(config-voice-mlpp)# route-code</pre>	<p>電話機ユーザがルートコードをダイヤルしてコールに特別なルーティングを指定することを有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• このコマンドは Cisco Unified CME 8.0 以降のバージョンでサポートされます。</li> </ul>
ステップ 11	<p><b>attendant-console number redirect-timer seconds</b></p> <p>例 :</p> <pre>Router(config-voice-mlpp)# attendant-console 8100 redirect-timer 10</pre>	<p>電話機が応答しない場合にコールがリダイレクトされる MLPP アテンダント コンソールサービスの電話番号を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>number</b>— Cisco Unified Cisco Mobility Express 基本自動着信呼分配 (B-ACD) および自動受付 (AA) サービスの内線番号または E.164 電話番号。</li> </ul>

	コマンドまたはアクション	目的
		<ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>seconds</i>— 通話をリダイレクトする前に、電話機からの応答を待機する秒数。</li> </ul>
ステップ 12	<b>ica audio-url</b> 例： <pre>Router(config-voice-mlpp)# ica flash:ica.au</pre>	(任意) 独立コードアナウンスを再生するためのオーディオファイルを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• このコマンドは Cisco Unified CME 8.0 以降のバージョンでサポートされます。</li> </ul>
ステップ 13	<b>loc2 audio-url</b> 例： <pre>Router(config-voice-mlpp)# loc2 flash:loc2.au</pre>	(任意) C2 機能の喪失アナウンスを再生するためのオーディオファイルを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• このコマンドは Cisco Unified CME 8.0 以降のバージョンでサポートされます。</li> </ul>
ステップ 14	<b>vca audio-url voice-class cause-code tag</b> 例： <pre>Router(config-voice-mlpp)# vca flash:vca.au voice-class cause-code 29</pre>	(任意) 空白コードアナウンスを再生するためのオーディオファイルを指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <i>tag</i>— VCA が再生される原因コードを定義する音声クラスの番号。範囲：1 ~ 64。</li> <li>• このコマンドは Cisco Unified CME 8.0 以降のバージョンでサポートされます。</li> </ul>
ステップ 15	<b>end</b> 例： <pre>Router(config-voice-mlpp)# end</pre>	特権 EXEC モードに戻ります。

## 例

次に、オプションパラメータによる MLPP コンフィギュレーションの例を示します。

```
voice mlpp
  preemption trunkgroup
  preemption user
  preemption tone timer 15
  preemption reserve timer 10
  access-digit 8
  attendant-console 8100 redirect-timer 10
  service-digit
  route-code
  bpa flash:bpa.au
  bnea flash:bnea.au
  upa flash:upa.au
  ica flash:ica.au
  loc2 flash:loc2.au
  vca flash:vca.au voice-class cause-code 29
  service-domain midcall-mismatch method2
  service-domain dsn identifier 000010
```

## MLPP サービスのトラブルシューティング

### 手順の概要

1. `enable`
2. `debug ephone mlpp`
3. `debug voice mlpp`

### 手順の詳細

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<b>enable</b> 例： Router> enable	特権 EXEC モードを有効にします。  • プロンプトが表示されたら、パスワードを入力します。
ステップ 2	<b>debug ephone mlpp</b> 例： Router# debug ephone mlpp	Cisco Unified CME システム内の電話機への MLPP コールのデバッグ情報を表示します。
ステップ 3	<b>debug voice mlpp</b> 例： Router# debug voice mlpp	MLPP サービスに関するデバッグ情報を表示します。

## MLPP の機能情報

次の表に、このモジュールで説明した機能に関するリリース情報を示します。この表は、ソフトウェア リリース トレインで各機能のサポートが導入されたときのソフトウェア リリースだけを示しています。その機能は、特に断りがない限り、それ以降の一連のソフトウェア リリースでもサポートされます。

プラットフォームのサポートおよびシスコソフトウェアイメージのサポートに関する情報を検索するには、Cisco Feature Navigator を使用します。Cisco Feature Navigator にアクセスするには、[www.cisco.com/go/cfn](http://www.cisco.com/go/cfn) に移動します。Cisco.com のアカウントは必要ありません。

表 7: MLPP の機能情報

機能名	Cisco Unified Cisco Mobility Express バージョン	機能情報
MLPP の機能拡張	8.0	<p>次のサポートが追加されました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 追加 MLPP アナウンス</li> <li>• 複数のサービス ドメイン</li> <li>• ルート コードとサービス 番号</li> <li>• アナログ FXS ポートでの 3 者間電話会議、通話ピックアップ、および通話待機のキャンセルなど、補足サービスとの相互動作</li> </ul>
Cisco Unified Cisco Mobility Express の MLPP	7.1	<p>検証済みのユーザが優先順位の高いコールを発信でき、必要に応じて優先順位の低いコールをプリエンブション処理できます。</p>

## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。